

## 第3回庄原市長期総合計画審議会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成27年3月30日（月） 13:00～
2. 開催場所 庄原市役所本庁舎5階 第1委員会室
3. 出席委員 上水流 久彦 委員 ・ 秋山 愿 委員 ・ 積山 豊通 委員  
生熊 剛士 委員 ・ 石川 芳秀 委員 ・ 山内 文雄 委員  
藤元 恵里子 委員 ・ 毛利 昭生 委員 ・ 岡崎 輝子 委員  
早井 千波 委員 ・ 住田 鉄也 委員 ・ 清光 康子 委員  
東 泰治 委員 ・ 堀江 勝 委員 ・ 明賀 誠 委員  
山岡 芳晴 委員 ・ 松長 百合子 委員 ・ 吉岡 史郎 委員
4. 欠席委員 藤谷 善久 委員 ・ 片島 一平 委員 ・ 土井 幹雄 委員  
小林 護 委員 ・ 吉川 由基子 委員 ・ 大坂 秋雄 委員  
手島 亜希 委員
5. 出席職員 企画課長 兼森 博夫  
企画課企画調整係長 加藤 武徳  
企画課企画調整係 本郷 明宏  
企画課企画調整係 森久 敬太
6. 傍聴者 山陽新聞東城支局 支局長 南山 晴雅
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

## 第3回庄原市長期総合計画審議会次第

平成27年3月30日（月）13：00～  
庄原市役所 本庁5階 第1委員会室

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告
  - ・住民アンケートにおける記述回答について
4. 議事
  - ・専門部会への所属について
  - ・平成27年度審議会スケジュールについて
  - ・基本構想素案にかかる各地域審議会での意見について
  - ・第2回審議会における意見対応等について
  - ・第2期庄原市長期総合計画基本構想（素案）について
5. その他
6. 閉会

## 会議経過

### (1) 開会

### (2) 会長挨拶

次回からは部会が中心になる。全体での素案の議論は今回が主となるため、2時間程度の中で、コンパクトにご意見をお聞きできればと考えている。

### (3) 報告事項

- ・住民アンケートにおける記述回答について  
事務局より報告。

### (4) 議事

- ・専門部会への所属について  
資料により事務局が説明。
- ・平成27年度審議会スケジュールについて  
資料により事務局が説明。
- ・基本構想素案にかかる各地域審議会での意見について  
資料により事務局が説明。
- ・第2回審議会における意見対応等について

会 長：修正部分はこの後に説明があるので、議論は次へまわすこととしたい。

- ・第2期庄原市長期総合計画基本構想（素案）について

会 長：前回の意見を整理すると、高齢者施策を充実させるべきとの意見と、若者、子育て世代の施策を充実させるべきとの意見で議論が分かれるところがあった。コンパクトシティの考え方についての意見、人口減少の認識が甘い、前計画の評価をすべきなどの意見があった。それについては今回修正がされ、検討するたたき台は作られたと思う。

事務局：（資料により事務局説明）

(25 頁まで)

会 長：2 節の社会背景について、地方では人口減少が課題となっているため、冒頭に記述してもらいたい。また、国際化への対応について、外国からの観光、外国人実習生、まちづくりや活性化づくりでの外国人市民の活用、地域産品の海外販売等に関する記述を追加してもらいたい。長期総合計画の中で欠けているものの一つが国際化への対応だと思う。最後に文言の問題だが、表題が事象とテーマとで混在しているので、記述としての表現を見直し、見出しをみたら今の動きがわかるような書き方をしてもらいたい。

委 員：消滅可能性都市について、庄原市も含まれているためその記述をしてほしい。庄原市の厳しい状況をしっかり共有することが必要である。庄原市の地域特性の現状の部分において、地域の担い手、地域コミュニティ、生活交通の非常に厳しい実態が触れられていないが、基本計画で出てくるのか。

委 員：今後、少子高齢化が進行し、後期高齢者の割合が 63%にもなる。高齢者福祉の推進に対して、しっかりとした位置付けが必要である。75 歳以上の市民のことについて触れるべきである。

委 員：東城の地域審議会では、コンパクトシティ構想に対し、周辺集落が取り残されるのでは？とほとんどの委員が懸念し反対していた。表現をわかりやすいものにしていくべきである。

会 長：素案の部分において、コンパクトシティや高齢者福祉の問題が出てきているが、後ほど審議をしていく。素案について、社会背景の部分で市の課題を提示すること、人口減少について見出しをつけることを検討してもらおう。さとやま文化という表現について、庄原市においてはどう扱うか検討すべきだろう。今後、庄原市が目指すべきあり方、活かすべき資源としてどのような表現がこの地域を表すのにいいのか、今後委員の皆さんと検討していきたい。

(26 頁以降の現行計画の評価～課題)

会 長：計画書の素案は、人口減少を出来る限り押えていくこと、人口を維持していくことが根本な考えである。他の地域審議会では、人口にこだわらず、人口減少を受け入れた循環型の社会について考えるべきとの意見があり、江田島市の長期総合計画のように、数値よりも市民の満足度を重視するという考え方もある。様々な考えはあるが、今回は基本的に人口減少に対する取り組みに力を置き、施策を考えていくこととなっている。そうしたことを踏まえ、課題整

理について考えを聞かせてもらいたいと思う。

委員：評価にある目標指標について、10年前と今回の数字とを比較・検討できるように示してほしい。農家1戸当たりの所得、商業や工業、畜産等の数字が載っていないものもある。今後検討をするにあたって、数字上で比較できると非常に分かりやすくなると思うため、早期に提示してほしい。

委員：現住民の幸せと人口減少、両方を重視すべき考え方だと思う。庄原市民が幸せであることがベースであり、庄原市の良さ、強みを分かってもらえるよう、外へのPRをしなければいけない。内向きと外向きの両輪でしっかり考えていく必要がある。

会長：全体の方向性についての意見、根本になる部分なので、考えがあれば意見をお願いしたい。

委員：人口減少の抑止は難しいが、住みやすいまちづくりには年齢層の人口バランスが重要である。IUターン等、具体的に取り組み、若い層の割合を少しでも増やしていくことが、住みやすいまちづくりにつながるのではないかと。

委員：さとやま文化都市を掲げて10年が経つが、少し小さいイメージを受ける。田園文化都市は広がりがあり美しいと思う。アンケートを見ると、情報網の確立に対して若者の要望が多く、必須な取組みである。教育と医療は必要であり、産婦人科がないのは致命傷である。基本になるところが固まっていないと若い人は戻って来ない。

委員：29頁のアンケート結果によると、例えば自治振興区の活動体制や活動状況に対する住民の満足度を比較しても、「どちらともいえない」が約50%でほぼ変化がない。ほとんど成果が上がっていないということだろう。整理された数字をもう一度見直し、魅力のあるまちづくりに焦点を当て、施策の検討をすべきである。庄原市で生涯を終えたいと思う層が増えれば、人口問題、産業問題など様々な部分の見通しが立っていくと思う。

会長：38頁の課題において、最大の重要課題は人口減少だが、それだけではなく、満足度が「どちらともいえない」ということは変化していないということだろうと指摘があった。人口減少とアンケート結果を踏まえ、表現は未定だが、「どちらともいえない」「普通」の票を減少させ、満足度の向上について質的な転

換を図ることも検討してもらいたい。データについても、部会の中で精査して  
いってほしい。教育と医療については、若い人の定住と関係する部分であり、  
部会の中で審議いただき反映したいと思う。内側の満足度を上げていくのと  
同時に、我々のやっていることをきちんとPRしていくことが必要である。他  
との違いをどのようにPRしていくかも検討してもらいたい。

(50 頁以降について)

事務局：特に人口目標を検討いただきたい。

会 長：50 頁の人口についてのご意見をいただきたい。

委 員：人口減少問題が各種の問題に繋がっている。庄原市には一人暮らしの高齢者  
が4千人近くいるが、交通面や見守り、健康問題など課題が山積している。将  
来の人口推計の実態、課題を見ながら、セットで議論しなければいけないと思  
う。減少しても良いと議論しても、生活面の課題解決には繋がらない。課題解  
決を考えるには、目標を高く置くべきであり、その上で減少させない努力をす  
べきである。

委 員：比和地域の地域審議会に出席したが、現状の認識をしている人ほど、人口減  
少と財政負担による閉塞感を感じている。今後10年の総合計画を作成する際  
に、現実の数字を見過ぎると閉塞感が強い計画になってしまう。ある程度の努  
力目標を設定すべきであり、行政も協働の力で努力をしましょうといったこ  
とを構想の中で訴えていかなければ、市民全体が閉塞感にとらわれてしまう  
ように思う。努力をすれば可能と感じられる目標を、多くの市民に感じてもら  
う基本構想にしていくべきである。目標人口の案2において、5%プラスの人口  
目標を掲げるのが良いのではと考えている。

委 員：総領地域審議会では、案3の現状維持を目標として設定し、努力していくと  
いう意見であった。

委 員：全国的に人口減少という厳しい状況がある。とりわけ中山間地域、西日本で  
は、全国平均以上に厳しい状況にある。第1案の目標数値を見ながら、10年  
間の動きをしっかりと捉え、可能な努力目標を出していくべきである。第1案  
のように厳しい状況をそのままたなくてはいけない。

委員：各旧町村の地域審議会での意見を踏まえ、事務局側の考えはどうか。現在の人口の維持はどうかと思う。施策や実施計画はそこと伴わないものをせざるを得なくなる。

委員：西城の審議会では、人口目標を設定してもその通りにならないのではないかという意見が大勢を占めたが、希望的な観測として、全国からIターン等で集まってきているのは中国地方が一番多いと聞いた。安心をして子供を産み、安心をして子供を育て、最後まで生活できる環境を整えることが必要である。案1の状態を踏まえ、人口の減少幅を小さくする努力が必要と考える。

委員：地方での予算が重要で、交付税がウエイトを占めている。人口減少が進む中、予算の設定はできない。現状維持は実効性がないと思う。何をすれば人口が増えるかといった努力目標とは違ってくる。人口問題については、現実をある程度踏まえて認識すべき。案1を基本にしたらよいのではないか。

委員：人口問題は地域が生きていく上で一番ベースになるものである。企業においては売り上げのことである。売り上げ目標をどう立てるかということが大切であり、従業員を維持するためにはいくらの売上げがないといけないのか、そうしたことを想定し、あるべき姿を描き、実現する手段を立てるプロセスを考慮すべきである。10年後ではなく1年後、2年後、3年後とセットで見直しをしていき、その中でゴールに行きつくというプロセスも一つの参考になると思う。

委員：案3に賛成である。推計を主に考えなくても良いと思う。現に、当時の推計値と1,500人の差が出ている。今の人口をいかに維持していくかを、行政や住民が同じ認識のもとで考え、スタートするためには、現在の3万7千人という人口を維持していく計画を立てるのが1番良いと思う。交流人口は定住にも繋がる。庄原の商業、工業社数は激減しており、小規模事業者も同じである。目標を下げずに頑張ろうとする経済活動は忘れてはいけないが、現状維持をスタートとして全市民での共通認識を持つべきだろう。

委員：目標は実態に即したのではなく、努力目標として高く持つべきである。「さとやま」でなく「田園都市」としていくべきだ。たおやかでフレキシブルである。閉塞感を取っ払わないといけない。

委員：人口問題は大事だが、手が届かない目標は立てるべきではない。案3は良くない。例えば、結婚相談員の設置など、人口減少に歯止めをかける施策として具体策が必要だと思う。行政が行う統計に振り回されることなく、自然減少より少し上に設定するのが良いのではないか。これからは心の豊かさに対する施策を打つべきである。高齢者や障害者が明るく住みやすいまちづくりが必要である。

委員：夢を与える計画がほしい。人口構成を考えると、庄原市は後期高齢者がかなりの割合を占めており、ここ数年間は人口が減少していく現実からは逃れられない。それを踏まえれば、案3ではなく案2にならざるを得ないのではないか。

会長：後悔しない計画にすべきであり、現実を見据えた目標とすべきである。案2を支持しているが、何%ということは、具体的にどのような施策等で達成し得るのかといったことで判断していきたいと考えている。検討してほしい。

委員：案2で検討してもらい、実現可能な数字をある程度幅を持たせて設定してはどうか。

委員：施策を設定する中で調整すべきであって、現時点で決めるべきではない。岡山県津山市のように、全小学校区ごとの推計値を出し、地域住民とも共有しながら検討していくことも必要ではないか。

事務局：資料（出産の推計）を追加提示するので検討していただきたい。学校区ごとの推計も示せる場合はそれらも提示する。

会長：ここでの決定が最終ではないが、目標をある程度定めるうえで、多数意見を踏まえ検討していただきたい。案にもパーセンテージを提示していただき、各自治振興区の人口推計も併せて提示してもらいたい。

（コンパクトシティ・地域資源活用構想について）

会長：高齢者の社会参加や生きがいを確保することを踏まえた施策を検討してほしい。若者向けの重点的な施策も必要である。コンパクトシティと交流人口の増加のためには、交通の課題解決が必要である。そこに目配りができなければ、コンパクトシティに対しての反発は大きいと思う。

委員：コンパクトシティの議論をするのではなく、庄原市の各地域の状況を整理した上でコンパクトシティを整理すべきである。

委員：コンパクトシティは効率化の問題がある。新しい価値の創造も必要であり、それを重要視したプランであるべき。

委員：若者が求める満足度と高齢者の求める満足度は違うと思うが、高齢者がこの地域でよかったと思えるまちづくりが大事だと思う。

委員：コンパクトシティ構想について、市民に丁寧な説明をすべきである。交通弱者や買物弱者の高齢者等に対して、中心部に居住してはどうかという提案であれば理解できる。

委員：コンパクトシティは大きな軸にすべきである。国の介護保険制度が限界に達し見直しがされたため、地域で在宅ケアの仕組みづくりを考える必要がある。過疎化や高齢化が進む中、交通のネットワークを広げ、安心して治療や介護を受けることができるようにすることは非常に重要である。

委員：コンパクトシティについて、高野町では厳しい問題であり不可能と感じる。ずっと高野町で住み続けることを考えたい。辺鄙な所に住む人が満足することが一番だと思う。

事務局：資料について、国土交通省が提案するコンパクトシティの発想に至る原則的な考え方が57頁に整理され、58頁では庄原市におけるコンパクトシティの考え方を整理している。合併前の1市6町にはそれぞれに中心地があり、そこから放射状に道路が整備され、山あい谷沿いに添って小道路や集落が点在しているため、効率が悪いことは事実である。市街地や支所の周辺に、買物、福祉、医療、住宅等の機能をコンパクトに集積する発想は、有効かつ必要であると考えられる。しかし、強制的に1ヶ所に集めることは出来ない。市街地等の便利な場所を要望された場合において、市民生活を守り、転出を抑制するためにも適切な対応が必要であることから、安心を感じることでできる生活環境の集約化について検討が必要だということ。

委員：地域住民サービスの低下が懸念される印象を受けるため、自治振興センターと連携し、地域に周知していくことが重要である。そのため、自治振興センターの会長等が住民に説明できるよう、まずは会長等に周知を図る必要がある。

のではないか。

委員：旧市町においては、医療や買物等すでに集約がされており、その機能自体が人口減少等に伴い衰退しているのが現状である。ニーズがないから企業や医療機関がなくなる。国のコンパクトシティ構想は、すでに庄原市が実施できるレベルではないように思う。

委員：比和町内から庄原市等の大きな病院へ行くには医療便が大きな問題である。

会長：イノベーションの創出が大事という意見があったが、良い意味で生活面における選択肢が増えるのであれば理解してもらえるが、現時点では見えにくい。部会において事務局は積極的な提案をしてほしい。交通の大局をしっかりと作っていくことが必要である。

委員：交流人口の拡大に向けてのグランドデザインの中では、北部に特化した記述がされているが、南部の記述、例えば総領地区のセツブンソウ等を前段で記述してほしい。

会長：既にある資源の部分と今後において重点化する部分とを書き分ける必要もあるだろう。

事務局：基となる構想においても現在調整中である。北部地域を先行的な取組としているのには理屈があり、次回審議会において説明をしたい。庄原市の地域資源を活かした地域振興は当然である。全地域を対象とした検討は必要なことであると認識している。

委員：各部会において具体的なまちづくりのイメージを十分に議論し、事務局に提出していくことでよいか。

委員：50 頁にある基本理念の設定と視点について、根本的な考えとしてしっかり共有できるよう情報を出してほしい。行政主導のまちづくりから自治のまちづくりへ転換したにもかかわらず変化が見えない。もう一度、まちづくり基本条例の理念とは何かをしっかりと示していただき、基本構想に反映させるならばもっと情報を出してほしい。

委員：少子高齢化への対策も大切だが、子供のことも大切である。

事務局：コンパクトシティについては、今後誤解のないよう説明していきたい。

会長：高齢者や若者への施策の充実等について、各部会で検討していただくが、若者の定住やUI ターンを増やすことを念頭に検討していただきたい。働く場がなければ人は入ってこないため、交流人口を活用した上での産業の育成も十分に検討していただきたい。情報を発信することによって、近隣自治体等の若者に対して、市がどういう取り組み・アピールをしているかを伝えることができるため、人を引き付けるには何が必要かを具体的に検討していただきたい。

(5) その他

(6) 閉会